

令和5年度 租税教育に関する研究発表要項

名取市立館腰小学校

教諭 川村 理恵

1 研究主題

租税への関心を高め、意義や役割への理解を深める指導の工夫

～第6学年 総合的な学習の時間「税金について考えよう」の学習を通して～

2 主題設定の理由

租税についての意義や役割を理解していくことは、これから大人になり納税の義務を負う児童にとって必須であると考えます。

租税に関する学習は、第6学年社会科の指導計画において、「子育て支援の願いを実現する」(7時間扱い)の中の「税金の働き」(1時間扱い)で取り扱う内容となっている。児童が租税についての意義や役割を深く理解するためには、十分な時数は確保されていない。

そこで、児童自らが課題を設定し、調べてまとめるという学習を通して租税について理解を深めることが、総合的な学習の時間のねらいを達成するのに適していると考え、本主題を設定した。

3 研究目標

児童が課題を設定し、調べたり発表し合ったりする活動を通して、租税への関心を高め、租税の意義や役割への理解を深める指導法を探る。

4 研究方法

- (1) 児童の租税に関する実態調査を行う。
- (2) 租税教室を実施し、租税に関して理解を深めさせる。
- (3) 税金について調べさせ、ノートにまとめさせる。(家庭学習)
- (4) 課題別にグループを編成し、プレゼンテーションにまとめさせる。
- (5) 発表会を開き、調べた内容を共有させる。
- (6) 2度目の租税教室の実施と、小学校社会科用学習資料「わたしたちのくらしと税金」に取り組みさせることにより、学習した内容を振り返らせ、理解を深めさせる。
- (7) 事後調査を行い、児童の変容をみる。

5 研究計画

令和4年	5月	実態調査	租税教室(講師 仙台南法人会)
	5～7月	実践授業	
	8月	租税教室	(講師 税理士 木村 拓也 氏)
	9月	研究のまとめ	

6 研究の概要

- (1) 児童の実態：事前調査(令和4年度 6年2組 25名 5月25日実施)

1 税金にはどんな種類がありますか。知っている税の名前を書きましょう。

消費税(15名) 所得税(5名) 固定資産税(3名) 法人税(2名) 住民税(2名)

国民税、たばこ税、相続税、自動車税、ポテトチップス税、分からない（1名）

2 税金は誰が納めるものですか。

国民（大人も子どもも）	（20名）
大人	（4名）
子ども	（0名）
納めたい人だけ	（0名）
分からない	（1名）

3 税金は、どんなことに使われていますか。

学校	（7名）
医療	（7名）
国民がよりよく暮らすための予算	（5名）
ゴミ処理	（5名）
道路整備	（4名）
公共施設	（2名）

救急車、給付金、教育費、自衛隊、消防、老人ホーム、国の政治、総理大臣のお給料、消防関係
地方税の場合はその地域のために使い、国税の場合は国をより良くするために使うから（1名）
分からない（2名）

4 税金は必要だと思いますか。

必要	（19名）
どちらとも言えない	（6名）
不要	（0名）

5 そう思う理由を書きましょう。

〈必要〉

税金がなければ生活が大変だから。

税金は高く、消費税は10%もとられるが、その分国民に幸福が巡ってくると思うから。

水道は原価よりも利用費のほうが高くてその原価の足りない分を国税で収めているから必要だと思う。

国民が平等に生活していくため。

税金を使って公共施設などを便利にしていかなければ日本は成り立たないと思ったから。

医療にお金がなくなると今みたいに病気が流行ったときに対応ができなくなるかもしれないから。

健康で豊かな生活を送るため。

救急車などを呼ぶときにお金を払わないといけなくなるから。

自然、医学などに使うから。

道路や橋を整備するお金がなくなるから。

なんとなく。

〈どちらとも言えない〉

徐々に税金が増えているから。

税金がないと困るけど、お金を稼げば稼ぐほどお金を取られる税金もあるから。

コロナの時期で給付金があるけど、その分の税金を減らせばいいと思う。

必要だとは思いますが、たくさん稼いで半分以上税金に渡すのは不公平だと思うから。

【考察】

「税金の使われ方」に関しては、実態調査を行う前に、社会科で1時間の学習を終えていることから、児童は、税金は「公共のために使われていること」「国民の生活をより良くするために使われていること」を、ある程度理解しているようだった。

税金の必要性については、「必要19名」「どちらともいえない6名」と答えており、「不要」は0名であった。税金は、自分たちのために使われているため、ないと困ることがたくさん出てくることから、必要であると考えている児童が多かった。税金がなかったらどんな生活になるのかを考えた児童もいた。「どちらとも言えない」と答えた児童も、たくさん稼いで半分以上税金に渡すのは不公平だと思うなど、仕組みに対しての考えはあるものの、税金の必要性は感じている。

一方、仕組みや具体的な知識はまだ浅い。そのため、税金がどんどん高くなっていることに対して不安を感じている児童もいる。

社会科の学習で、1時間学習しただけでは、税金の意義や役割への理解を深めることは難しいことと、児童は税金に対する興味関心が高いということが分かった。

(2) 学習計画

月	教科	学習内容	時数
5月	社会	単元「子育て支援の願いを実現する」の中で、「税金の働き(1時間扱い)」について学習する。	7(1)
	総合	「租税教室で税金について学ぼう」	1
6月 7月	家庭学習	「税金に関して調べよう」 ・税金に関して調べ、ノートにまとめる。	
	総合	「税金に関して調べよう」 ・一人一人課題を設定し、その課題別にグループを編成して調べる。 ・プレゼンにまとめる。	5
		「税金に関して調べたことを発表しよう」 ・調べた内容を発表し、税金に関する理解を深める。	1
		「租税教室で税金について理解を深めよう」	1
		小学校社会科用学習資料「わたしたちのくらしと税金」で振り返る。	1
		「振り返る」 ・「税金について考えよう」の学習の感想を書く。	1

(3) 実践の概要

【第1次】「租税教室で税金について学ぼう」

租税教室を行う。(5月27日)

- ・税の種類
- ・税は必要か
- ・もし税金がなかったら ビデオ「マリンとヤマト 不思議な日曜日」 (消防、警察、道路信号、救急車)
- ・学校の中で税金が使われている物の例と金額 (校舎、プール)
- ・税金が使われている物と金額
- ・国民の三大義務 税金=みんなが出し合う会費である

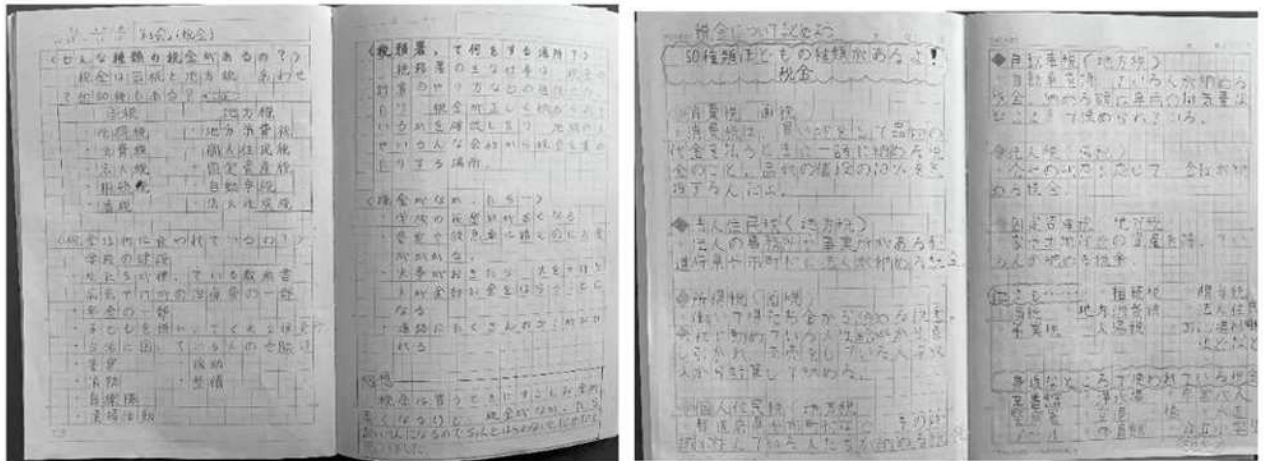


〈児童の様子〉

意欲的に話を聞いていた。手を挙げて質問する児童も多かった。税金がなくなったらどうなるかを具体的に考えさせる内容だったため、必要性を強く感じる児童が多かった。税金について「もっと知りたい」「自分で調べたい」という意見が出た。

【家庭学習】「税金について調べよう」

租税教室を受け、関心を持ったものについて自主学习ノートにまとめさせた。児童が調べた内容は、種類や使われ方、税務署について、歴史など幅広いものだった。払わないと大変なことになってしまうので、ちゃんと払いたいという考えを書いた児童が多くいた。



租税教室で学んだ後だったため、見通しが持っていたことと、身近なものも税金が使われていることを知ったことで、大変意欲的に調べ、まとめていた。

【第2次】「税金に関して調べよう」

・一人一人課題を設定し、その課題別にグループを編成して調べ、プレゼンテーションにまとめる。
租税教室と家庭学習を基に、さらに詳しく調べたいことから課題設定させた。
児童が設定した課題・・・（種類、使い道、歴史、仕組み、世界の税金）

【第3次】「税金に関して調べたことを発表しよう」

・調べた内容を発表し、税金に関する理解を深める。
税金に関して、調べてまとめたことを発表し合い、学級全体で税金に関する知識を共有した。その際、質疑応答させながら、互いに教え合ったり、新たに生じた疑問について確認させたりして、税金に関する理解を深めさせた。



〈児童の様子〉

租税教室で学んだことに加え、自分で調べまとめる活動を行ってからグループでプレゼンテーションにまとめたことにより、調べたい内容がはっきりしている児童が多く、意欲的に活動することができていた。表やグラフ、クイズなどを用いながら興味を引き、分かりやすいプレゼンテーションを作成することが出来ていた。発表を聞いて初めて知ったことも多くあったようで、より一層関心を高めていた。税金について理解が深まり、必要性をさらに感じていた。

【第4次】「租税教室で税金について理解を深めよう」

租税教室を行う。（8月25日）

- ・税金はみんなのために使われるお金
- ・税金ゲーム

→いろいろな集め方を組み合わせることで、みんなが納得できるように税金の集め方を工夫している。



【第5次】「振り返ろう」

・小学校社会科用学習資料「わたしたちのくらしと税金」を用いることで、これまで学んだ内容について問題を解きながら楽しんで振り返りができた。

〈税金について考えようの学習をしての感想〉

税金について調べたり、発表を聞いたりして学んだことや考えたことを書こう。

税金について学び、ありがたみを感じることができた。学習する前、昨年までは「高いなあ」とか「お金があ」とか、本当にもったいないと思っていた。更に、一番関係深い消費税が10%に引き上げられたことにより、うまいぼうが一円高くなってしまった。不満をいただくことが多々あった。たが、詳しく学習を進めていくうちに、そのような不満は消えていったような感じがしていた。特にしょうげきを受けたのは、小中学校の負担額だ。九年間で一人あたり九百万円弱も出していただいていることに、ありがたいと思えた。また、税理士、税務署など、初耳の言葉も覚えられたので勉強になった。また、色々な税の種類もあり、調べていくのが楽しかった。この学習をして良かったと感じる。

税金について調べたり、発表を聞いたりして学んだことや考えたことを書こう。

税金の仕組みや使い道はとても複雑な人だなあと思いました。そして、もし税金がなかったら、学校に行くのに1か月あたり約7万円くらい出して学校に行けなくなってしまうので、税が高くても納めることが大事だと思います。また、選挙に投票して自分の考えを反映させることにより、国民が不満を持たないためにも選挙に投票することが大事だと思います。

き問に思えたことは銀行は消費税を預けがれているのになぜ、銀行自体は税金をつくられないのが不思議に思いました。

税金について調べたり、発表を聞いたりして学んだことや考えたことを書こう。

税金は自分の身の回りに大々関わっていることに改めて気づきました。様々な種類の税金を払っていて、そして学校、道路などにはその税金が使われていて、税金に助けられていると思います。ほとんどの公共施設には税金が使われていて、本当に税金がなかったら今のようにくたせていないかと思います。国民が税金を払い、その税金で助けられているというシステムを考えた人は本当に平和になってほしいなと思います。学校、図書館など、いた人から利用するような場所だけでなく、浄水場やごみ処理場などで支えている施設も税金でまわられて見えていないところも税金が生活を支えていると思います。

税金について調べたり、発表を聞いたりして学んだことや考えたことを書こう。

税金の学習をするまで税金とはなにかわからなかったけれども、税金の学習をしてから、税金はすごく大事なものだとなりました。税金は、住民の安全や快適なくらしのためや、みんなが利用できる施設のためにつかわれていることがわかり、なくなってしまうのはだめなものだとなりました。税金を納めるということはわたしたちが、健康で豊かなくらしを送るために欠かせないことだと思います。学習をして、税金を大切にしたいと思いました。

(4) 児童の実態：事後調査（令和4年度 6年2組 28名 8月30日実施）

1 税金にはどんな種類がありますか。知っている税の名前を書きましょう。

消費税（15名→21名） 法人税（2名→3名） 住民税（2名→9名） たばこ税（1名→12名）、
相続税（1名→2名） 固定資産税（3名→11名） 自動車税（1名→14名） 所得税（5名→11名）
酒税9名 ポテトチップス税、事業税、贈与税、入湯税、ゴルフ場利用税（1名）

2 税金は誰が納めるものでしょうか。

国民（大人も子どもも） （20名→24名）
大人 （4名→4名）
子ども （0名）
納めたい人だけ （0名）
分からない （1名→0名）

- 3 税金は、どんなことに使われていますか。
- | | |
|------------------------|----------|
| 学校 | (5名→13名) |
| ゴミ処理 | (4名→4名) |
| 医療 | (7名→3名) |
| 公共施設・公共の場 | (2名→5名) |
| 消防車、警察 | (2名→5名) |
| 道路整備 | (4名→4名) |
| 信号機、ダム、児童センター | (1名) |
| 国のみんなのため 国を支えるため 国民のため | (4名→7名) |
- 4 税金は必要だと思いますか。
- | | |
|-----------|-----------|
| 必要 | (19名→24名) |
| どちらとも言えない | (6名→4名) |
| 不要 | (0名) |
- 5 そう思う理由を書きましょう。
- 〈必要〉
- 救急車や医療費が高額になるから。(6名)
 - アニメで税金がないと大変なことになるのを知ったから。(6名)
 - 税金がないと学校に行くためにお金をたくさん払わないといけないから。(5名)
 - 町の整備ができなくなるから。(5名)
 - ゴミ処理や壊れた場所の工事などをしてもらえなくなり、生活に困ることになるから。(3名)
 - 道を通るだけでお金がかかるから。(1名)
 - 火事になったときお金がかかるから。(1名)
 - 国民の生活が不便になるから。(1名)
 - 国民が平等に暮らすため。(1名)
- 〈どちらとも言えない〉(事前調査と同じ児童)
- 累進課税はお金を持っている人がかわいそうだから。
 - お金は大切だからあまり使いたくないけど税金はとても大切だから。

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・1回目の「租税教室」後に、家庭学習として税金について調べ、ノートにまとめさせたことで、「もっと調べたい」「これはどういうことだろう」などの発言が見られ、総合的な学習の時間への意欲が高まった。
- ・児童が自ら税金についての課題を設定し、調べたことをまとめ、発表し合う活動を行ったことで、意欲的に学習に取り組むことができ、租税の意義や役割への理解を深めることができた。
- ・「税金がなくなったら、どんな生活になるのか」を具体的に考えさせたことで、納税の義務への意識が非常に高まった。
- ・学習の始めと終わりで「租税教室」を行うことで、興味関心を高める効果と、学習してきたことを確認する効果があった。税理士の方から専門的な話を分かりやすく聞くことで、税金の大切さを実感することができた。

- ・租税に関する知識が深まり、「しっかり税を納めよう」「18歳になったら選挙へ行こう」という意識が高まった。また、「生活の中の税金で支払われているものを大切にしなければならぬ」「教育は税金でまかなわれているものがたくさんあるから、しっかり勉強しなければならぬ」という考えも持つことができた。
- ・学習する前は税金について知らなかった児童や高くなる消費税にあまりいいイメージを持っていなかった児童が多かったが、租税について理解を深めたことで、税金の大切さや必要性を理解することができたので、租税教育の機会がとても大切だと感じた。

(2) 課題

- ・専門的な語句を調べても理解することが難しい場面があった。教師も租税に関する知識を付けて学習させる必要があると感じた。